

科目群の編成

環境ツーリズム学部で開講されている授業科目は、教養科目と専門教育科目とに分けられる。

環境ツーリズム学部の履修体系(表)

2023 年度生

区 分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	必修	選択必修	選択Ⅰ	選択Ⅱ	合 計			
教 養 科 目	導入科目	課題探求ゼミナールⅠ・Ⅱ				4	9						
		コンピュータ基礎											
		アカデミックライティング											
	論理と思考	選択必修〔最低 4 単位〕									4		
	身体と感性	選択必修〔最低 4 単位〕									4		
	地域と世界	選択必修〔最低 4 単位〕									4		
	歴史と未来	選択必修〔最低 4 単位〕									4		
	職業と生き方	職業選択と生き方											
外国語科目	英語・中国語・ドイツ語・韓国語 選択必修〔英語もしくは中国語 4 単位必修を含む最低 8 単位〕				4 外国人留学生は除く	4 外国人留学生は除く	28 (26) ※1						
	日本語 外国人留学生				(10) ※2								
計37単位(39 単位)											125 単位		
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	地域社会学 地域環境概論 観光概論				6	18						
		選択必修〔最低 4 単位〕								4			
	地域マネジメント	選択必修〔最低 6 単位〕								6			
	社会調査	選択必修〔最低 6 単位〕								6			
	観光専門	〔最低 4 単位〕								4			
	環境専門	〔最低 4 単位〕								4			
	職業観養成科目												
	演習科目		専門ゼミナールⅠ			4							
				専門ゼミナールⅡ		4							
					卒業研究ゼミナール	4							
関連科目								計60 単位					

※1 選択Ⅱの28 単位には単位互換による他大学での履修単位を含む。

※2 ()内は外国留学生の修得単位を示す。

教養科目

長野大学における教養教育の理念は全人的人間形成を主眼としている。①論理的で批判的な思考をもって知的判断力を発揮できるようになること。②主体的かつ調和的に地域・社会および世界と関われるようになること。③世界の歴史と現在を踏まえて未来を創造できるようになること。④健全な身体感覚と美的感性を伴った人間になること。さらに、あらゆる思考を根底で支える言語(外国語)の学修を通じ、これらの素養を調和的に身につけることをとおして、全人的人間形成を図ることを目指している。また導入科目では、グループ学習や体験型学習などの機会を通じて、これらの学びの基礎となる能力を養成することを目指している。

(1) 導入科目

下記の科目は1年次に全員が履修しなければならない科目

◎「課題探究ゼミナールⅠ・Ⅱ」

課題探究ゼミナールは、学生の関心を出発点に、社会や人間の基本的・普遍的問題をともに考え、議論することを通じ、大学生活を通じて深めたい学びや課題、目標を明確にすることをめざす授業である。グループ学習や体験型学習を通じて自分のテーマを見つけると同時に、大学での学びに必要な基礎的能力を養う。

◎「コンピュータ基礎」*

この科目は、Windowsの基本操作、ワードによる文章作成、エクセルなどによる資料の作成と整理、インターネットによる検索等のコンピュータの基礎的技術を学ぶ科目である。MOS(マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト)検定試験の合格を念頭においた指導が行なわれる。

◎「アカデミックライティング」*

この科目は、大学でレポートや論文を書くにあたっての基本的なノウハウを学ぶ科目である。「感想文ではなく論文を書くとはどういうことか」「文献やネット記事を参照した場合はどんな引用ルールに従うべきか」などを知り、実際に短い論文を書いて指導を受ける。個別指導を伴うため、学部全1年次の学生を25名程度ずつのクラスに振り分ける。

*は登録必修科目で、1年次には自動的に履修登録されるが、仮に単位を修得しなかった場合でも、翌年度以降の再履修は求められない。

(2) 講義科目

講義科目は4系列に分かれている。これらの科目群・多様な学問領域の学修を通じて、学生を取り巻く「いま・ここ」を相対化することを目指す。

【第1群 論理と思考】自然科学・社会科学などの体系的な知識を身につけながら、論理的に説明できる考察力や批判力をもって、社会事象等を深く考える姿勢を養う。

【第2群 地域と世界】長野大学が位置する信州・上田を主たるフィールドとしつつ、自然・風土・文化・人々の営み等を学ぶことをとおして、地域の理解や地域の持続的発展を担うための力を養成する。さらには、長野県を越えて社会や世界というもののあり方を普遍的に考究する意識を高める。

【第3群 歴史と未来】日本や世界を歴史的に考察しつつ、現在の立ち位置を知り、それらを踏まえた未来を構想する知恵を紡ぐ。

【第4群 身体と感性】人間活動の基礎となる生命力と健康的な身体・精神を保持し、自然・社会事象への高い感受性を磨いていく。生命活動を自己の身体と周囲の環境の両面から認識し、さらには文化・芸術も受け止めながら創造するような感性を磨く。

(3) 外国語科目

外国語の学修を通して、多様な思考形式や概念枠組みに触れつつ、母語によって私たちの前に構造とし

て起ち上がる生活世界における諸価値を相対化することにより、自らとは異なる他者との共生を目指した柔軟な思考や価値観を獲得した主体の確立を目指す。

<外国語科目の特徴>

- ① 外国語科目には英語、中国語、ドイツ語、韓国語の 4ヶ国語がある。
- ② 英語は、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語(講読)Ⅰ～Ⅵ」「英語(会話)Ⅰ～Ⅵ」の 14 科目、中国語は「中国語Ⅰ～Ⅵ」の 6 科目、ドイツ語・韓国語は、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の 2 科目ずつ開講され、レベル別にクラスが分かれている。数字が大きいほどレベルが高いことを示している。
- ③ 英語は、自身に合ったレベルを選択すること。レベル選択の目安はガイダンスで周知する。
- ④ 中国語、ドイツ語、韓国語は必ずⅠから履修すること。
- ⑤ 外国語は「英語(講読)」「英語(会話)」「中国語(聴解)」「中国語(作文)」を除きすべて週 2 回の授業である。

<英語の受講上の留意点>

- ① 英語のレベルは、積み上げ方式である。例えば「英語(講読)Ⅰ」を修得した場合は、次に履修する英語はレベルをひとつあげて「英語(講読)Ⅱ」となり、「英語(講読)Ⅲ」を修得した場合は、「英語(講読)Ⅳ」となる。
- ② 英語の単位を修得できなかった場合は、次の学期、学年で再度同じレベルの英語を履修しなければならない。原則としてレベルを上げたり、下げたりすることはできない。ただし、申し出があり、大学が認めた場合はこの限りではない。
- ③ 「英語(講読)Ⅰa」や「英語(講読)Ⅲb」などアルファベットがついているものは、クラス名であって科目名ではない。科目名は「英語(講読)Ⅰ」「英語(講読)Ⅲ」のようにローマ数字がついている。

<中国語、ドイツ語、韓国語の受講上の留意点>

中国語、ドイツ語、韓国語は、初学者を対象としている。したがって、まずⅠを履修し、次にⅡを受講する積み上げ方式である。Ⅰを単位修得せずに、Ⅱを履修することはできない。中国語のⅢ～Ⅵについても同様である。

<外国人留学生の履修上での留意点>

外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅳ」「日本事情基礎」の 5 科目、10 単位を履修しなければならない。

- ① 「日本語」
原則として、1 年次の前学期に「日本語Ⅰ」、後学期に「日本語Ⅱ」、2 年次以降に「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」の 4 科目を履修する必要がある。なお、所属クラスは大学が指定する。
- ② 「日本事情基礎」
「日本事情基礎」は 1 年次の必修科目である。

専門教育科目

カリキュラム体系

環境ツーリズム学部の専門教育カリキュラムは、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「職業観養成科目」「演習科目」「関連科目」から編成されている。「環境」「観光」「地域」の3つの領域について、基礎的な知識を修得しつつ、地域社会の課題にもとづいて講義とゼミナールによって学ぶ。また「職業観養成科目」では、2年次以降の「キャリアデザイン論」「インターンシップ」という実体験を重視した一連の科目の履修をととして、社会に出て活躍するのに必要な実践的な能力と素養を育てる。学習した知識はゼミナールの中で実践的な能力と統合され、卒業研究をまとめあげることを通じて総合的な力が育成される。

(1) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、環境保全や観光を通じた地域の持続的発展を学ぶ上で基礎となる科目からなる。このうち、学部教育の共通基盤をなす「地域社会学」「地域環境概論」「観光概論」は必修科目となっている。また、「まちづくりの社会学」「まちづくりの政治学」など学部の専門的な学びの基礎となる科目からは最低4単位を履修する。

(2) 専門基幹科目

専門基幹科目は、地域マネジメント科目と社会調査科目からなる。

地域マネジメント科目は、地域社会を運営するために必要な、企業・自治体・NPOなどの組織管理能力、人間関係ネットワークの運用能力、自然環境・文化資源の保全・活用能力を育てる科目である。これらの科目の履修を通して、具体的な地域運営能力、地域資源を地域づくりに結びつける能力を養う。地域マネジメント科目は最低6単位を履修する。

社会調査科目には、1年次から履修できる「社会調査論」を中心に、「社会調査法」や統計処理にかかわる「統計学」「社会統計法」が配置されている。これらの履修を踏まえて、3年次には「地域調査演習」で特定の地域社会を対象にして実地調査を行う。これらの科目を履修することを通じて、地域研究に必要な実証能力を培うとともに、社会調査士の認定資格の取得に必要な科目を履修することができる。社会調査科目は最低6単位を履修する。

(3) 専門展開科目

専門展開科目は「環境専門」と「観光専門」の2つの領域からなる。本学部の教育の特色は、専門基幹科目における「地域マネジメント」系の科目をベースに、「環境」「観光」の各領域を結びつけながら総合的に学べることである。専門展開科目では、2つの領域からそれぞれ最低4単位を履修する。

・環境専門

これらの科目では、自然環境を保全し、環境と共生する社会をつくるために必要な環境政策や環境マネジメント、環境教育や地域生活のあり方などに加えて、自然生態系の仕組みや生物への理解をととして、これから必要とされる循環型社会や環境保全について実践的に学ぶ。

・観光専門

これらの科目では、地域の自然、文化資源を活かす観光産業、観光事業、観光計画の方法や、観光を楽しむ人生や社会のあり方の理解をととして「観光まちづくり」を学ぶ。

(4) 専門ゼミナールと卒業研究

必修の演習科目として、「専門ゼミナール」と「卒業研究ゼミナール」が設置されている。ゼミナールとは、関心のあるテーマに基づき、少人数でフィールドワークや輪読、討議などをしながら、相互に研究を深めていく場である。2 年次に「専門ゼミナールⅠ」、3 年次に「専門ゼミナールⅡ」、4 年次には「卒業研究ゼミナール」を必ず履修することで、大学での研究の集大成として卒業研究をまとめていく。「フィールド・実習ゼミナール」は「専門ゼミナール」に引き続き、連続で授業を行う等のゼミナールを履修する学生が受講するものである。

(5) 職業観養成科目

専門教育科目の学習と併行して、大学在学中の早い時期から、将来の職業や仕事に対するしっかりとした考え方と見通しを持ち、段階を追ってそれぞれの希望の仕事に近づくことができるようにするための科目である。「キャリアデザイン論」「インターンシップ」などを設置している。

(6) 関連科目

関連科目には、「企業会計論」や「経営学概論」の専門科目が置かれている。